原著論文

デンマーク体操が培う身体性
―「体つくり運動」における「デンマーク体操」の教育的意義への視座―

Embodiment through Danish Gymnastics
― Introduction of Danish gymnastics in Japan and its educational value ―

早野　曜子 (1,2)・三橋　綾子 (3)・有川　愛弓 (4)・松浦　早希 (5)・山田　恵子 (2)
Yoko Hayano，Aayako Mitsuhashi，Ayumi Arikawa，Saki Matsuura，Keiko Yamada

Abstract

This study has two main purposes. The first is to investigate what kind of physicality learners acquire through the practice of Danish gymnastics, and the second is to examine whether Danish Gymnastics encompasses a view of the body that the Japanese concept of “karada tsukuri” exercise does not.

In this study, it became clear that the students acquired the essence of "Karada tsukuri" exercise and a sense of beauty through gymnastics with their peers. The perspective of aesthetic sensitivity is unique to Danish gymnastics and is not found in the physicality expected in "Karada-tsukuri" exercises.

It is suggested that the educational significance of Danish gymnastics has been accumulated not only as a tradition but also through the experience of the physical sensibility that leads to enjoyment and aesthetics. This again is acquired through the physical empathy with others, the acquisition of inter-somatic sensibility, and the relationship with others that is cultivated by Danish gymnastics.

Aesthetic sensitivity is not learned and acquired as knowledge but is directly sensed through the experience of the body. Incorporating this perspective on sensitivity education into "Karada-tsukuri" exercise will lead to the education that nurtures ‘rich humanity’.

Keywords: デンマーク体操，体つくり運動，間身体性，身体感性，身体

はじめに

本研究はこれまで学校体育として注目されてこなかったデンマーク体操[注1]の身体性を軸に，体操を実践する学習者の主観を現象学的アプローチから考察し，現在の「体つくり運動」へと視座を広げ論を進めていくものである．

Ⅰ．問題の所在

「体操」[注2]は明治期に学校教育のために日本に取り入れられた身体文化である．自然発生的

(1) 日本体育大学大学院体育科学博士後期課程
(2) 自由学園
(3) 玉川大学教育学部
(4) 神村学園高等部
(5) 神戸市立友が丘中学校

に生まれたスポーツと異なり，健康で丈夫な身体を育てるために考えられた人為的運動である．「体操」が「教育」の文脈の中で実施されたということは，学校で行う「体操」は他律的に学習するものであった．実際に，1913 年に学校体操教授要目として導入されたスウェーデン体操は身体を科学的合理的に捉え，号令により実施された（頼住，2012）．他律的身体訓練であると同時に，集団体操により民族精神の高揚を目指す運動（木下，2015）であったとされる．

戦後民主主義に基づき，他律的身体訓練であった「体操」は主に「健康で動ける体」を育む学びへと変更し実践されてきた．「健康で体力のある身体」の育成は教育にとって必要であるが，人を育てる教育として考えた時に，「体力」や「健康」だけでなく「心と体を一体と捉える」感性を育てることは「豊かな人間性」の育成に欠かすことができない．この反省に立ち平成 10 年に学校体育の「体操」は「心と体を一体と捉える」運動として「体つくり運動」[注3)]と名称が変更された．

「体つくり運動」は「体力を高める運動」「体ほぐしの運動」からなり，技能の習得をねらいとしない運動の実践や，自己や他者の心身への気づきをねらいとする．「体つくり運動」の重要性は理解されているものの，実践されている運動はスポーツテストやラジオ体操など，「体力」という他者から評価されうる内容を含んでいることが課題となっている（檜皮，2013；南・池田，2018）．

他者への心身の気づきについて石垣は「『身体的経験と身体的対話』が昨今の子供達に不可欠な人間の『連帯』すなわち『われわれ』という認識に繋がること，それが『間身体性の教育』としての体育の重要性である」（石垣，2014）と論じている[注4)]．「体つくり運動」の実践場面において，「子ども同士のかかわりが言葉での「会話」として捉えられているのではないか．そのような「頭でっかちな体育」ではなく，「身体運動それ自体の中の対話」身体的対話に注目する体育が必要である」（石垣，2018）と石垣は問題を提起した．

以上のように日本の学校教育に取り入れられた「体操」は他律的身体訓練から健康な体の育成を目指す「体操」となり実践されたが，体力づくりに傾倒し，その反省から「体つくり運動」へと変更した．しかし他者に評価される身体や，言語活動による他者理解など「心と体を一体と捉える」ことに難しさを抱えている．

ではこの解決すべき課題に対して，これまで学校体育では注目されてこなかった「デンマーク体操」はどの様な解を提示できるのだろうか．デンマーク体操は，ニルス・ブック（Niels Bukh 1880-1950）により考案された．

1900 年代初頭ヨーロッパでは，動きが型に嵌り形骸化したスウェーデン体操に対して「体操に魂（命）を吹きこむこと」を目的に体操改革運動が起こり，デンマーク体操はその中で生まれた「新しい体操」の一つである（菅井，2014）[注5)]．

ブックは，労働により偏った身体を調整し，均整の取れた調和的な身体の発育，円満な感情と品性の陶冶を目的とし，民主主義を守るよき市民の育成を目指した．考案した“PRIMATIV GYMNASTIK”「基本体操」（Bukh，1931；佐々木，2016）は基本となる身体をつくる体操の意で，柔軟性・強靭性・巧緻性を育む動きを律動的に連続して行うリズム体操，器具を用いた運動，ダンスを含む体操であった．ブックは動きの形骸化をおそれ，体操の本質を保ちながら，型にハマらず常に目的に応じ自由に変化することがデンマーク体操であるとした[注6)]．日本の「体操」が型に嵌り，動きが形骸化していたのに対して，デンマーク体操は動きの要素（柔軟性・巧緻性・強靭性）を取り入れながら，対象に合わせ動きが変更できる自由さを持ち合わせていたと言える．

1931 年のブック体操チーム来日と演技発表は，ヨーロッパの「新しい体操」の実態を日本に紹介する機会となった[注7)]．「身体の美しさ，動作の美しさ，集団の協調美を作り出すアトラクティブな体操は，日本人が持っていた体操の概念を覆し「エンジョイする」気分を実感させるものだった」（佐々木，2016）と評価している．佐々木が書いたように，デンマーク体操は身体の感性が表出される体操として反響をよび，驚きを持って受け止められた．それにもかかわらず当時の文部省はスウェーデン体操の定着普及の最中であることや，デンマーク体操の発表が青年により実施されたことで，発育期の子どもには運動強度が高いこと，日本に適

した体操を構築すべきだなどの見解から，学校への普及は一部の私立学校のみに留まった（城丸，1960）[注8]．

一部の学校を除きデンマーク体操が学校体操に導入されなかったことは「新しい体操」のもつ身体の感性という概念が浸透することがなかったことを意味する．つまり同じ学校体育で実践される体操でありながら，一方は他律的身体訓練を主とする「体操」，もう一つは自己の身体を通して感性が表出される「デンマーク体操」の２つの異なる文脈の身体性を持つ「体操」が存在することになった．その身体性とは，物理的身体機能としての身体性(physicality)と，感性で認知される身体性（embodiment）と２つの異なる文脈の身体性である[注9]．この２つの身体性の流れは，戦後も続き現在に至っている．

Ⅱ．先行研究の検討

2.1　体操の多義性

「体操」は，歴史的経緯から広義にも狭義にも語られ，運動の内容も多義性を含み，また文化によっても理解が異なるため，「共通理解には多角的研究が必要」（廣橋他，1989）とされた[注10]．

近藤は戦後の体操領域の変遷から体操の論点として①体力づくり②体操の独自性（文化性）③指導方法④特性論（必要充足か否か）を挙げ「体操を必要充足に留めている特性論の強化によって切り捨てられてしまったことがあまりにも多い（中略）日本の学校体育の中では体操独自の文化性というものはほとんど存在しなかったということは指摘できる」（近藤，1995）と述べている．切り捨てられた部分とは，「動きづくり」と個人のからだに注目する視点であるとされる．動きづくりは「新しい体操」に含まれる観点である．「新しい体操」について大谷は「身心はもともと一体にして分離でき難いものである」（大谷，1931）と述べ，体操には心が含まれていることを示唆している．その後，島崎は「新しい体操」の特徴として（1）人間の自然性を重んずる．（2）生活と結びつけた動作の合理性を強調する．（3）生理学･解剖学の他に，美学･心理学を基礎とする．（4）個性を尊重し運動を自由・自主的に行う．（5）静的姿勢よりも動きを重んじ，これを総合的に扱う．（6）運動の律動を重んじ表現的に扱う．（7）音楽が動作と密接に結合する，の７点を特徴としてあげている（島崎，1979）．また「新しい体操」を踏まえて板垣は「日本では体操では体力づくり，スポーツでは技能を練習して，ダンスでは表現というふうに解釈されていますが，体操にも技能もあり，表現もあります．体操の内容は，体つくり（身体形成）と動きつくり（運動を身体の中に学習すること）の２つの柱で成り立っています」（田川・板垣，2000）と述べている．体力づくりを主とする必要充足な体操，動きづくり（表現）という欲求充足の体操など，体操は多義性を含むが，日本では「体操」が狭義に理解されていることを板垣は指摘した．

以上のように，1900年代に生まれた「新しい体操」には，心身を一つと捉える視点や，美学・心理学を基礎とし，動きを表現するという特徴があったことが認められているが，現在行われている「体つくり運動」においては「心と体を一体と捉える」運動という視点はあるが，美学を基礎とした動きの表現という視点は認められていない．

2.2　デンマーク体操に関する研究

これまでデンマーク体操は主に動きの内容と成り立ちの観点から研究されてきており，1931年の来日時には大谷武一，宮田覚造らにより文化的背景を含めた研究がされてきた[注11]．しかしデンマーク体操の身体性については言及されていない．

現在デンマーク体操を実践している３校は，それぞれ1927年（T学園）1928年（J学園）1974年（K学園）からデンマーク体操を取り入れて授業を行っている[注12]．実践される体操は，音楽を使ったリズム体操，体力を高めるトレーニング体操，表現・ダンス体操，手具を用いた手具体操，器具を用いた転回運動など，現行の体育種目の「体つくり運動」「器械運動」「表現・ダンス」の３領域を含み，集団による体操発表を実施している．３校で共通する点は，重心移動を伴う振りの運動，体幹から始まる波動運動，巧緻性を伴う跳躍運動などの基本的な動き，棍棒・ボール・布などを用いた手具体操，１人または他者と一緒に行う柔軟運動などである．３校ともブックが創立したデンマークのオレロップ体育アカデミーで体操を学んだ教師

が指導している．体操の実施方法には各学校の特徴があるが，同じメソッドのデンマーク体操を指導している点で共通のデンマーク体操といえる．

デンマーク体操の動きの変遷について早野は，1931 年から 2015 年まで来日したデンマーク体操チームの演技を分析した結果，集団体操的表現からコンテンポラリーダンス的表現へと移行してきたことが明らかとなった（早野，2022）．デンマークで行われている体操の動きの変化については明らかにしたが，日本で実践されているデンマーク体操については未だ明らかにされていない．

2.3 「間身体性」「身体感性」との関連

デンマーク体操は 1 人，または他者と協働で体操をするだけでなく，集団演技発表することまでを含むことが特徴である．自己と他者が協働で動く場面で生じる関係について哲学者のメルロ = ポンティは「彼と私とは，いわば同じ 1 つの間身体性 intercorporéité の器官なのだ」（メルロ = ポンティ，1970）と述べている．メルロ = ポンティの先天的に備わっているとする「間身体性」に対し，石垣は「さまざまな『身体的経験』や『身体的対話』によってより豊かに再構造化されてゆくような後天的（経験的）な間身体性 」（石垣，2014 ）を主張する．

本稿では石垣の主張する「間身体性」からデンマーク体操を捉える．石垣は「体つくり運動」において身体と身体を通した対話の成立，すなわち間身体性の教育という視点が求められるとしている．そして「体つくり運動」の実践例から「『知識としての身体→感じる身体』，『自己の身体→他者の身体→社会的な（われわれ）の身体』」へと学習者の認識が変容してきたこと示した（石垣ほか，2018）．こうした学習者の変容は身体的経験と身体的対話により獲得される感性である．デンマーク体操の実践において，「身体的感じ」と「身体的対話」が感得されているかどうかについては，いまだ明らかにされていない．

体育史研究のハンス・ボンデは日本で継承されているデンマーク体操について「日本においてデンマーク体操が“Denmark Taiso”として自由学園や他の学校で現在まで継承されており，国境を超えて，若者に市民としての意識，身体感覚に影響を与えている」（H.Bonde，2020）とその特異性について述べている．ボンデのいう「身体感覚」とは動きとリズムが調和する身体の感覚である．

滝澤はリズム体操の良さや特徴について実践者へ選択回答によるアンケートを実施し，その結果「自分の動き」「音楽を使った運動 」「仲間の動き」「仲間とのかかわり」「自分の気持ち」の 5 因子が抽出された（滝澤ほか，2005）．この 5 因子は，感性教育としてリズム体操を成立させる要素である．滝澤はリズム体操を感性教育の視点から研究したが，身体性との関連や，「仲間とのかかわり」について「間身体性」につながる「身体的なかかわり」か「心的かかわり」かについては明らかにされていない．では具体的に実践者がどのような身体感性を得ているのだろうか[注 13)]．

身体感性の研究者である R・シュスターマンは Soma（身体）と Aesthetics（美学）を合わせて Somaesthetics という概念を提唱し，樋口はそれを「 身体感性論」とした．「身体への配慮に関する知識や言説を問題化するだけでなく，身体をめぐる実践や，身体への配慮を改良する身体訓練までを含む実践的哲学論である 」として「自己の身体がより良いものに変えられていく実践的取り組みとして「体ほぐし」にその可能性があるのではないかと述べている（樋口，2002 ）．実際に裵芝允は身体感性論の観点から「体ほぐしの運動」でヨーガを実践し，実践的身体感性論の「内的感覚 」「向上」の 2 つの視点を軸に考察した．実践的アプローチにより，子どもが自己の身体の存在を捉え直す可能性「身体の再確認」「身体的経験のパターンの増加」など実践的身体感性論の教育的意義を認めている（裵芝允，2017）．

2.4「体つくり運動」との関連

「体つくり運動」は，それまで「体操」領域が体力を高める運動を中心に学習指導要領で書かれていた内容に，心と体を一体と捉える「体ほぐしの運動」を加え，体操の身体的・心理的側面を明確化した（文部科学省，1998）．菅家は学習指導要領改定の 2 年後の 2000 年に「体操」は他者との比較や競争ではなく，自らの体と向き合うものであるが，体操は「必要充足」の側面からの視点と指導方法論に偏る傾向があったことを指摘している．そして「体操」から「体ほぐし」の導入について，「体操」の

本質の検討がなされず，名称変更されたことへ疑問を呈している（菅家，2000）．その後2007年に笹本は「体ほぐしの運動」について大学生を対象に調査し，自分の体と心を一体ととらえる視点から「体ほぐし」の有用性を検証している（笹本，2007）．

また松本は，体ほぐしの運動で学習者がどのような身体概念を得ているかについて，自由記述とインタビューを用いて研究を行った．その結果学習者は「爽快感，楽しさなどの肯定感，自己の身体への気づき，共同での達成感，他者との交流や理解」などの身体感を得ていることが明らかとなった（松本，2015）．松本の研究は，実践者が多様な身体感を獲得していることを明らかにしているが，美的観点からの可能性については言及されていない．松本は「学習者の認知の視点から体ほぐしの運動を研究することは，帰納方法で体ほぐしの運動で何が学習されているか検証することであり，その方法論上の手続きからいっても学習者の経験中心の体ほぐし運動の本質に反することなく検証できるであろう」（松本，2015）と述べ，記述による身体概念に関する研究方法の有効性を認めている．

以上先行研究から，本来「体操」はその歴史的背景から身体育成としての体づくりだけでなく，感性教育として動きづくりを通した身体表現など多義性を有していたが，学校体育の中で「体操」が「体力づくり」に傾倒し，体操の「独自性・文化性」は「体つくり運動」へと移行する文脈の中で切り捨てられ現在に至っていることが明らかとなった．

これまでデンマーク体操は学校体育の主流から外れ，デンマーク体操を実践している学校で学習者がどのような身体性を獲得しているかについての研究はなされてこなかった．

デンマーク体操が培う身体性を検討することは，切り捨てられてきた「体操」の独自性である感性を探求することに繋がる．それは「体つくり運動」として捉えてきた身体教育に異なる視点を提示することにつながる可能性があるのではないか．

Ⅲ．研究目的

そこで本研究はデンマーク体操を実践している学校を対象に学習者が体操の実践を通して（1）どのような身体性を獲得しているかについて「間身体性」と「身体感性」の概念を用いて考察し，感性教育としてのデンマーク体操の身体性が，本来「体つくり運動」で期待されている身体性に（2）どのように貢献できるかを検証することを目的とした．

Ⅳ．方法

研究目的を達成するための論述の手順は下記の通りである．

4.1　論述の手順

デンマーク体操の身体性を明らかにする方法としてメルロ＝ポンティ・石垣の「間身体性」の概念を用いて考察する．次に獲得された間身体性とは，どのような身体性なのかについてシュスターマン・樋口の「身体感性論」の概念を用いて考察する．その上で，デンマーク体操の身体性の特性が，本来「体つくり運動」で期待されている身体性にどのように貢献できるかを検討する．

4.2　調査方法

小学生は質問用紙，中学生・高校生・大学生は，Google フォームを用いてアンケートを実施した．

調査の具体的な方法は以下の通りである．

4.3　調査対象校

現在もデンマーク体操を実施しているJ学園・T学園・K学園の3校とした．現在の取り組みの様子は下記の通りである．

J学園：幼稚園から大学部までの一貫校であり，小学校「体操/運動」中学校・高校「体操/スポーツ」大学部「体操1.2.3.4」の名前で授業を実施している．10月に開催する体操会では幼稚園から大学部までの全校生徒が参加し，体操発表を行っている．また毎年9月から12月までデンマークから若手体操指導者が来日し，体操会では彼らの指導による体操プログラムを高校2・3年生，および大学生が体験している．

T学園：幼稚園生から教職課程をとる学生までが，体育祭での演技をはじめ，体育の授業や朝の体操など日々の教育活動で実践している．またデンマーク体操部（小6から大学4年）は，徒手・手具体操，マットやBOX・タンブリングを用いた転回運動などの練習を通してデン

マーク体操のマインドが伝統的に継承されている．また「自由研究」でデンマーク体操をテーマに選んだ児童・生徒は，デンマーク体操の研究を個人で進めながら1つのチームとして学園展で演技発表を行う．その発表の種目や内容も自分たちで創作している．

K学園：幼稚園年中から高等部3年生まで，発達段階に合わせた学園独自のデンマーク体操を用いた体つくり運動を授業に取り入れて実践している．運動会・スポーツフェスティバル・体育祭では全ての園児児童生徒に体操発表の場を設けている．幼稚園児と高校生がペアで体操発表するなど，一貫教育の特徴を活かした取り組みを行なっている．

3校とも毎年9月から10月にかけて，運動会や体育祭などで体操発表を実施している．リズム体操（T学園，J学園，K学園）手具体操（T学園，J学園，K学園）転回運動（T学園，J学園）などの演技を発表している．

4.4　調査対象及び回収状況

表1　調査対象及び回答数

対象者			性別		
年齢	人数	回答数（%）	男性	女性	不明
大学生	661	196（29.6）	72	117	7
高校生	1326	582（43.9）	148	415	19
中学生	411	377（91.7）	170	193	14
小学生	147	138（93.8）	29	19	90
合計	2545	1293（51.0）	419	744	130

（内訳）　J 学園：小学校 4-6 年生　92 名　中学生 219 名
高校生 229 名　大学生 90 名
T 学園：大学生 571 名
K 学園：小学校 4-6 生生　55 名　中学生 192 名
高校生 1097 名
実施時期：本調査は各学校の体操発表終了後の 2022 年 9 月から 11 月末までとした．

4.5　回答方法

小学生は質問用紙による回答，中学生・高校生・大学生は，Google フォームを用いて回答した．

実施にあたり調査目的と内容，回答の有無は成績と関係ないことを説明した上で無記名による回答とした．

なお，本調査は玉川大学（承認番号 TRE22-0020）と自由学園（承認番号 JRE24-001）から倫理審査の承認を得て実施された．また論文作成に際し，日本体育大学の倫理審査の承認を得ている（承認番号 024-H163）．

4.6　調査内容

デンマーク体操実践者がどのようにデンマーク体操を捉え，実感しているかを把握するため，身体的効果，心理的効果について選択による回答と自由記述による回答を実施した．選択回答の質問内容は，共同研究者の指導経験と過去の体操発表振り返りで得た感想から質問を設定した．

質問は「当てはまる・少し当てはまる・あまり当てはまらない・当てはまらない」の4択とし，集計は当てはまると当てはまらないの2群にわけて集計した．

問1「あなたが経験したデンマーク体操で得られたものは何ですか？」10項目を上記4尺度で回答

「自分と向き合う」「人と合わせる協調性」「仲間との一体感」（体つくり運動に関連する質問）

「向上心」「折れない心」「臨機応変な対応力」「広い視野」（精神面）「力強い身体」（身体面）「意識と動きを連動させる」「身体や手具をたくみに操る」（動きの習熟）

問2「デンマーク体操で得られた身体的効果」8項目を上記4尺度で回答

デンマーク体操の運動目的である「巧緻性」「強壮性」「柔軟性」を基準に設定した．

「左右のバランスが良くなった」「軽快に動けるようになった」（巧緻性）

「柔軟な身体」「身体が柔らかくなった」（柔軟性）

「疲れにくくなった」「筋力がついた」（強壮性）

「リズム感が良くなった」リズム体操の特徴

「体重コントロールができた」自己認識

問3「デンマーク体操の特徴について」10項目を上記4尺度で回答．

1 年齢や技術に関係なく誰もが取り組める
2 みんなでリズムや動きをそろえて動く楽しさ
3 指先足先まで意識して美しく動く
4 手具や自分の体重を利用した振りなどの動き
5 競争ではなく協力して創り出す動き
6 力強い動き
7 リズミカルな動き

8 身体を巧に動かす動き
9 体操する人と観客が共に楽しむことができる
10 発表する楽しさ

問4「デンマーク体操とは」（自由記述）の4項目とした.

4.7 分析方法

選択肢による回答の分析

問1－問3は,「当てはまる・少し当てはまる」と「あまり当てはまらない・当てはまらない」の2群で集計しMicrosoft Excelを用いて，差異についてカイ二乗検定を行った．自由記述については記述された文章をUser local AIテキストマイニングを用いて自由記述の出現語頻度・共起ワード（出現回数）の傾向を分析した※.

尚，本研究は質的分析方法を主として考察する．調査ではデンマーク体操の実態を測る目的で広く量的データも実施したが，数量的データは質的分析を保障するものとして用いた.

Ⅴ．結果

表2　デンマーク体操で得られたもの

	学校別	大学生（196）	高校生（582）	中学生（377）	小学生（138）	合計
自分と向き合う力	当てはまる n(%)	173（88.3）	455(78.2)	278(73.7)	88(63.8)	994(76.9)
	当てはまらない	22 (11.2)	127(21.8)	99(26.3)	50(36.2)	298(23.1)
人と合わせる協調性	当てはまる	186 (94.9)	526(90.4)	334(88.6)	114(82.6)	1160(89.7)
	当てはまらない	9 (4.6)	55(9.5)	43(11.4)	23(16.7)	130(10.3)
仲間との一体感	当てはまる	184 (93.9)	522(89.7)	328(87.0)	131(94.9)	1165(90.1)
	当てはまらない	12 (6.1)	60(10.3)	49(13.0)	6((4.3)	127(9.8)
向上心	当てはまる	161 (82.1)	447(76.8)	285(75.6)	103(74.6)	996(77.0)
	当てはまらない	35 (17.9)	135(23.2)	92(24.4)	35(25.4)	297(23.0)
力強い身体	当てはまる	143 (72.9)	422(72.5)	248(65.8)	85(61.6)	898(69.5)
	当てはまらない	53 (27.0)	160(27.5)	129(34.2)	53(38.4)	395(30.5)
広い視野	当てはまる	167 (85.2)	469(80.6)	288(76.4)	111(80.4)	1035(80.0)
	当てはまらない	29 (14.8)	113(19.4)	89(23.6)	26(18.8)	257(19.9)
折れない心	当てはまる	131 (66.8)	390(67.0)	225(59.7)	91(65.9)	837(64.7)
	当てはまらない	65 (33.2)	192(33.0)	152(40.3)	46(33.3)	455(35.2)
意識と動きを連動させる	当てはまる	178 (90.8)	503(86.4)	309(81.9)	117(84.9)	1107(85.6)
	当てはまらない	17(9.7)	79(13.6)	68(18.0)	21(15.2)	185(14.3)
身体や手具をたくみに操る	当てはまる	173(88.3)	483(83.0)	278(73.7)	105(76.1)	1039(80.4)
	当てはまらない	21(10.7)	99(17.0)	99(26.3)	33(23.9)	252(19.5)
臨機応変な対応力	当てはまる	153(78.1)	450(77.3)	272(72.1)	101(73.2)	976(75.5)
	当てはまらない	43(21.9)	132(22.7)	105(27.8)	37(26.8)	317(24.5)

自由記述では「教え合う」「仲間との協力」「周りと合わせること」「音楽との一体感」「集中力」「難しいけれど楽しい」「頭と体の連動」などがあった．頻出単語として「楽しさ」「音楽」「協力」「仲間」が抽出された.

問4【あなたにとってデンマーク体操とは】

一言で表すと何か，その理由についての記述は下記の通りであった.

【大学生】

J学園：「身体との対話：自分の体について知っていると思っても実際にはわからないことだらけ．体操が気づかせてくれる」「体操へ

※ユーザーローカルAIテキストマイニングによる分析（https://textmining.userlocal.jp/）

表３　デンマーク体操を実施して得られた身体の変化

	学校別 数	大学生（196）	高校生（582）	中学生（377）	小学生（138）	合計
左右バランスが良くなった	当てはまる n(%)	102(52.0)	275 (47.3)	192 (50.9)	108 (78.3)	677(52.4)
	当てはまらない	94 (48.0)	307 (52.7)	185 (49.1)	30 (21.7)	616(47.7)
柔軟な身体	当てはまる	165(84.2)	438 (75.3)	253 (67.1)	76 (55.1)	932(72.1)
	当てはまらない	31 (15.8	144 (24.7)	124 (32.9)	62(44.9)	361(27.9)
軽快に動けるようになった	当てはまる	138(70.4)	351(60.3)	224(59.4)	116(84.1)	829(64.2)
	当てはまらない	58(29.6)	231(39.7)	153(40.6)	21(15.2)	463(35.8)
体重コントロールができた	当てはまる	100(51.0)	263(45.2)	176(46.7)	80(58.0)	619(47.9)
	当てはまらない	96(49.0)	319(54.8)	201(53.3)	58(42.0)	674(52.2)
リズム感が良くなった	当てはまる	145(74.0)	388(66.7)	262(69.5)	120(87.0)	915(70.8)
	当てはまらない	51(26.0)	194(33.3)	115(30.5)	18(13.0)	378(29.3)
疲れにくくなった	当てはまる	104(53.1)	256(44.0)	171(45.4)	83(60.1)	614(47.5)
	当てはまらない	92(46.9)	326(56.0)	206(54.6)	55(39.9)	679(52.6)
筋力がついた	当てはまる	104(53.1)	256(44.0)	171(45.4)	83(60.1)	614(47.5)
	当てはまらない	92(46.9)	326(56.0)	206(54.6)	55(39.9)	679(52.6)
身体が柔らかくなった	当てはまる	104(53.1)	256(44.0)	171(45.4)	83(60.1)	614(47.5)
	当てはまらない	92(46.9)	326(56.0)	206(54.6)	55(39.8)	679(52.6)

表４　デンマーク体操の特徴

【デンマーク体操の特徴】		大学生 196	高校生 582	中学生 377	小学生 138	合計
年齢や技術に関係なく誰もが取り組める運動	思う n(%)	171(87.2)	431(74.1)	314(83.3)	115(83.3)	1031(79.9)
	思わない	25(12.8)	151(25,9)	63(16.7)	23(16.7)	262(20.3)
みんなでリズムや動きを揃えて動く楽しさ	思う	187(95.4)	520(89.3)	345(91.5)	117(84.8)	1169(90.4)
	思わない	9(4.6)	45(10.7)	23(8.5)	14(15.9)	91(9.7)
手具や体重を利用した'振り'の動き	思う	184(93.9)	500(85.9)	303(80.4)	99(71.7)	1086(84.0)
	思わない	12(6.1)	82(14.1)	74(19.6)	39(28.3)	207(16.0)
指先や足先まで意識して美しく動く運動	思う	193(98.5)	530(91.1)	320(84.9)	108(78.3)	1151(89.0)
	思わない	3(1.5)	46(7.9)	57(15.1)	30(21.7)	136(10.5)
競争ではなく協力して創りだす動き	思う	190(96.9)	529(90.9)	352(93.4)	129(93.5)	1200(92.8)
	思わない	6(3.1)	53(9.1)	25(6.6)	9(6.5)	93(7.2)
力強い動き	思う	155(79.0)	437(75.1)	235(62.3)	93(67.4)	920(71.2)
	思わない	41(20.9)	145(24.9)	142(37.7)	45(32.6)	373(28.8)
リズミカルな動き	思う	187(95.4)	537(92.3)	354(93.9)	124(89.9)	1202(93.0)
	思わない	9(4.6)	45(7.7)	23(6.1)	14(10.1)	91(7.0)
身体を巧みに動かす動き	思う	181(92.3)	511(87.8)	324(85.9)	110(79.7)	1126(87.1)
	思わない	15(7.7)	71(12.2)	53(14.1)	28(20.3)	167(12.9)
体操する人と観客が共に楽しむとができいる運動	思う	180(91.8)	492(84.5)	314(83.3)	111(80.4)	1097(84.8)
	思わない	16(8.2)	90(15.5)	63(16.7)	27(19.6)	196(15.2)
発表する楽しさ	思う	176(89.9)	437(75.1)	273(72.4)	103(74.6)	989(76.5)
	思わない	20(10.2)	145(24.9)	104(27.6)	35(25.4)	304(23.5)

の目覚め：体操が好きでなかったけれど，すごく楽しくて驚いた．体操に目覚めたきっかけだったと思う」など自己への気づきや「みんなで行う身体表現：今まで体を動かすことに喜びを感じたことはないが，全員で１つの体操を見せるという貴重な経験はデンマーク体操ならではの経験と思う」「人と人を繋げることができる宝のようなもの」など他者との関係性について述べているもの「発表を見ていると力強さや正確さより美しさが伝わってくるから」「揃うことで美しさが際立つ体操だと思うから」「学園の思い出：体操会が一番大きな行事だから」など学校との関連や，「腕を回す：この動きが多い気がする」など動きについての記述にとどまるものも見られた．

頻出単語：できる・楽しい・感じる・喜び・表現・一緒・しなやか・共有・力強い・美しい・上手い

T学園：「協調：個性というより大きなものの一つになるイメージ」「集団行動：一人一人が主人公として欠けたらいけないから」「以心伝心：言語やアイコンタクトなどではなく，心で通じ合いながら演技する必要があるから」など協調・仲間などについて記述しているものや「T学園の伝統あるもの：T学園を象徴するものだと思った」「一体感のある伝統的な踊り：全員で合わせた時のまとまりが非常に魅力的で，一人一人が協力しなければ作り上げることができない．動きの独特さが伝統で固有なものと感じたから」など学校の伝統についての回答があった．また「和：チーム全員が互いに合わせて初めて美しい動きになるため調和が求められる」「芸術：皆で揃えて1つの美しい作品を作るという面で芸術と同じである」「綺麗：全体で一つのものに取り組むことによってしなやかな動きやダイナミックな動きを作り出すことができ，手や足が伸びていることにより，より美しく踊ることができると感じたから」など動きの美について言及しているものがあった．その他「難しい：次の動きを考えないといけない」「修行：体操の練習はとても大変なものだが，それを乗り越えることで個人だけでなく，団体としても成長できたと感じたから」など必修で取り組むなかから感じた記述も見られた．

頻出単語：感じる・楽しい・一体感・美しい・難しい・協調性・健康・しなやか・体育祭・協力・表現・仲間

【高校生】

J学園「身体の喜び：体操をしていると，楽しくて自然と笑顔になっている．身体から体操できる喜びが溢れているように感じるから」「体を使った心の表現：ただふりを覚えて体操するというよりもダンスらしい要素があるように感じる．自分が体操にのめり込んでいくような感覚があるので心の表現であると考えた」「心身の踊り」「仲間がいて初めて成立する：誰かができなければ支え合って揃うことで綺麗に見えると思ったから」「一心同体：全員が心・体を揃えて完成するものだと思っているから」など他者との協働についての言及している．また「表現：振り付けが多く，何か表現しているようだから」「踊り：デンマークからきた人の体操を見ると体操というより踊りに近いと思ったから」「響き合い：この体操というものは1人で成すものではなく，演じる人，見ている人皆で創り上げていくものだと感じる．その中にある表現力やこだわりが自分にも相手にも響き合っていく，それこそがデンマーク体操の意義だと私は感じるから」など表現に関わる記述や「伸びやか：皆で気持ちよく伸びやかに体操する」「敷居の低い体操：とっつきやすく，そこまで高難易度ではない」など動きそのものについての記述や「大変なもの・嫌い」など否定的な回答もあった．

頻出単語：楽しい・できる・感じる・表現・綺麗・音楽・合わせる・美しい・難しい・すごい

K学園：「協力：みんなで協力して楽しむ体操だから」「青春：強化部生全員で最後まで取り組んだから」「達成感と楽しさを共有できるもの：一緒に練習したり踊ったりすることによって楽しさを感じたり，発表の機会があることによって練習した達成感を得ることができる」「仲間との一体感」など他者と協力して達成感を得たとの記述がみられた．「かっこいい：揃っていて迫力がある」「見ていてすごくかっこいいと感じていたから達成感があります」「きつい：動きが激しいから」「難しい：振り付けが複雑だから」「伝統：先輩から引き継がれてきたから」「達成感：最後までみなで合わせて頑張ることで達成感が溢れる．難しいし，大変だからこその達成感」「踊る楽しさ・集団演技・柔軟運動・表現力・わからない・1人では完成することができない」などの記述があった．

頻出単語：楽しい・できる・踊る・難しい・かっこいい・合わせる・揃う・きつい・一体感・体力・授業達成感・綺麗・面白い・すごい

【中学生】

J学園：「リズミカルで楽しい体操：みんなで協力して踊る楽しいイメージ」「みんなで協力しながら楽しく体操をする：デンマーク体操ならではの楽しさがあって，大変なところもあるけれど，そこもみんなで教え合う協力をして最後にはみんなが綺麗に踊れると思ったから」「柔軟性を身につける体操」「仲間と関わりあう体操」「美しい体操：デンマーク体操を見るとすごく軽やかに動いているからすごく綺麗に見えた」「心身ともに活性化するもの：体も動かすし，皆と協力をして心も活性化するから」

「面白い：体操というと堅苦しく聞こえがちですが，様々な動きがあって，その中でもそれぞれの動きに合ったい見せ方みたいなものを意識しつつできて興味深かったから」「仲間と響き合う：体操会の時の目標と常に思っていること．運動が得意ではない自分も苦手意識なく取り組める」などの記述があった．

頻出単語：楽しい・できる・協力・リズム・合わせる・綺麗・難しい・美しい・柔軟・踊る・創る・すごい

K 学園：「難しいけど楽しい：最初は難しくてできなかったけどやっていくうちに覚えて最後には楽しく踊れたから」「体育祭の主役」「疲れるけど達成感のある体操：覚えるのが難しく，最後までやり通した時に達成感があった」「仲間と協力して楽しむ運動：今まで体育とかあまり好きではなかったが，デンマーク体操を友人や先生たちと練習する中で，体を動かすことの楽しさに気づくことができたから」「体慣らし：体育の前にすると体が軽くなるから」「リズム感が大事」「疲れる準備体操」「動きを合わせてキレイに見せるダンス」などの記述があった．

頻出単語：楽しい・できる・協力・難しい・合わせる・リズム・踊る・授業・体育祭・きつい・力強い

【小学生】

J 学園：「ルールのない楽しい体操」「難しいけれど，達成感がある」「明るい体操：曲が明るいから」「体全体をうまく使う：体を柔らかく使ったり，指先・足先までしっかり伸ばす体操だと思っているから」

頻出単語：楽しい・面白い・協力・楽しめる・達成感・共・柔らか・難しい・明るい・美しい・だるい

K 学園：「難しいけど楽しいもの：最初は難しいなと思うけど，やっていくとこれがデンマーク体操なんだと楽しい気持ちになるなと思った」「切磋琢磨:みんなが高めあうから」「みんなと動きを作り出す運動：みんなと一緒に協力して動きを作ることが多いから」などの記述があった．

頻出単語：楽しい・難しい・できる・協力・楽しめる・すごい・良い・達成感・みんな・発表

図は＊テキストマイニングで生成したワードクラウドである．出現回数が多い語が大きく表されている．

大学生

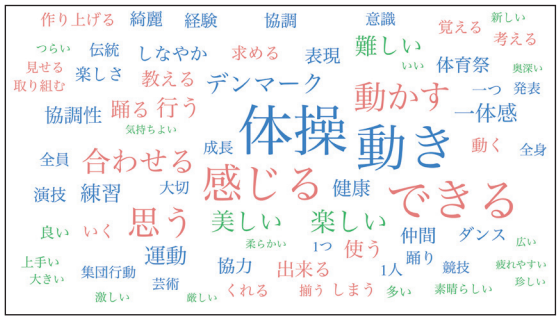

図１　T 学園

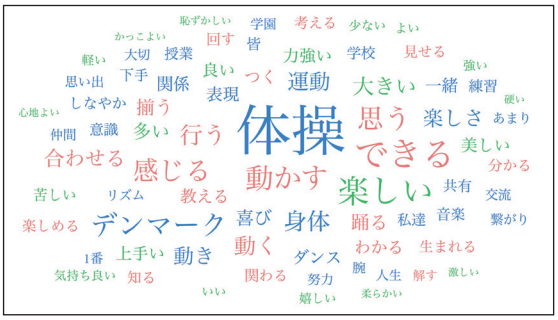

図２　J 学園

高校生

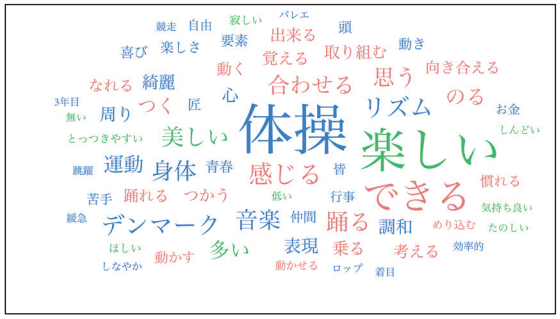

図３　J 学園

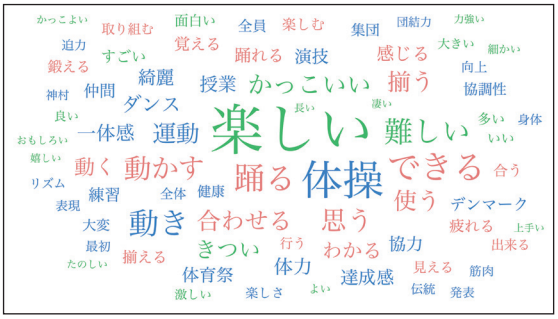

図４　K 学園

中学生

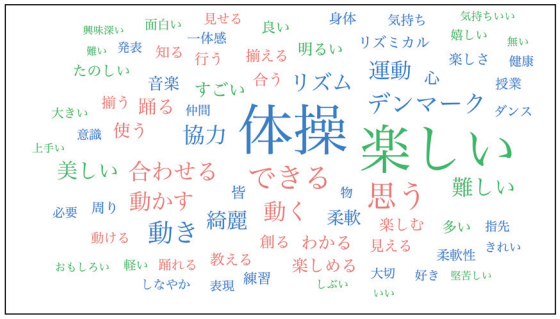

図５　Ｊ学園

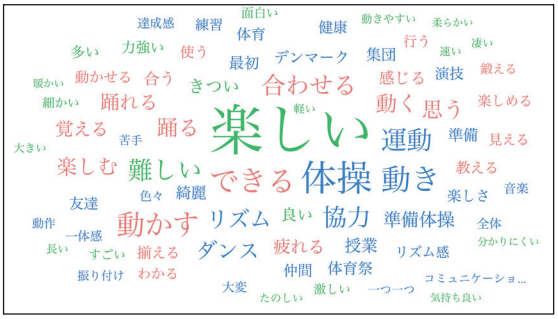

図６　Ｋ学園

小学生

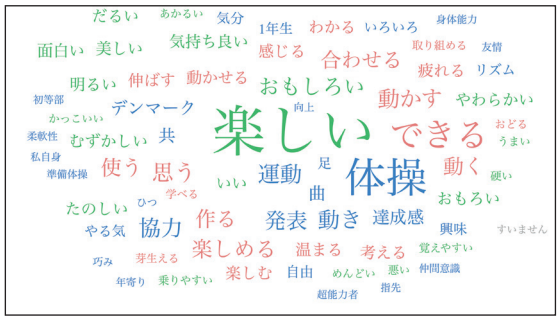

図７　Ｊ学園

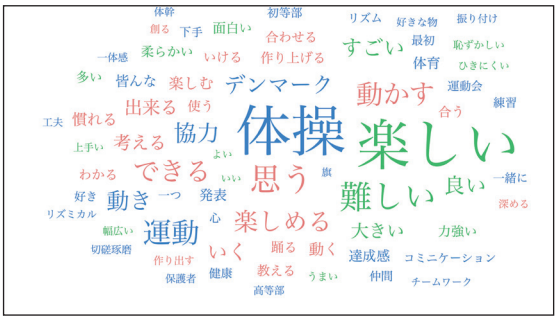

図８　Ｋ学園

Ⅵ．考察

6.1.1　学校別特徴

各学校の特徴と共通する点は下記の通りであった．

Ｔ学園：1931 年のブック体操チーム招聘の中心的役割を果たした．現在も体育祭では園児から教職課程をとる学生と，デンマーク体操部員（小学６年生ー大学生）が体操発表を行なっている．自由記述では「伝統・以心伝心・和・協調」などが頻出単語として抽出されている．「多くの話を聞き，学園の象徴とするものだと思ったから．これからも残していくべきものだと感じたから」と伝統を継承していく意義を感じている．また初めて体操に取り組む学生は「修行：体操の練習はとても大変だが，それを乗り越えることで個人だけでなく，団体としても成長できたと感じたから」の感想があった．

Ｊ学園：1931 年のブック体操チームの演技発表を学園で行い，それ以来デンマーク体操を学校体育の中心として実践している．2003 年からは毎年９月から 12 月までデンマークの体操指導者を招聘し，幼児から大学部の学生が体操指導を受けている．「身体との対話」「憧れ：いつもオレロップの人たちの体操をみて，このように踊れるようになりたいと思う」「体を磨く体操：デンマークから教えにきてくれる人はみんな体操や転回が綺麗で学んでいる体操は美しいから」や，デンマーク指導者の体操を通してつながる「ひと繋ぎの秘宝」としてデンマーク体操をとらえていることが特徴として出た．

Ｋ学園：幼稚園年中から高等部３年生まで，発達段階に合わせた学園独自のデンマーク体操を用いた「体つくり運動」を授業に取り入れている．アンケートを実施した児童・生徒からは「楽しい」「憧れ・一体感・集団演技」などが頻出単語として抽出された．コロナ禍を経て，幼稚園・初等部・中等部・高等部それぞれでの体育祭・運動会開催となっているが，それぞれの部における学園独自の準備運動である「自校体操」と共に，発達段階に即した体操を学年ごとのまとまりを基本に発表している．頻出単語として「強化部・かっこいい・伝統」が抽出された．強化部は高校の運動部だけで行う演技である．運動能力の高い生徒が巧緻性・強壮性を主とする男性的な動きをダイナミックに行うため「かっこいい」と感じられる事がＫ学園の特徴である．「かっこいい学園の体操」

は「難しいが達成感のある体操」「体育祭の主役」として認知されていることが，記述から読み取れる．

T 学園・J 学園では体操発表に手具体操を行った．「奥が深い，様々な手具を使い表現するから」「曲や手具の有無などにより同じ体操でも趣向を変えたものができる」など手具と動きについての記述が見られた．またT学園・K学園では「集団演技」「団体行動」の記述があるが，文脈からは，他律性を認識させる記述は認められなかった．生徒・学生数が多く集団で体操するため，そのような言葉で記述されたのではないか．

3校で行なっているデンマーク体操の動きには共通点もあるが，体操発表のプログラムとしてはそれぞれの学校で異なる．しかし3校の指導者は同じデンマーク体操の根本的思想「調和の取れた身体と円満な感情と品性の陶冶を目的とした人格の育成」に沿い，自分の身体と向き合う動き，ペアやグループで一緒に動く動きなど教育的意図を持って体操指導を行なっている．

学習者の自由記述には，「難しい」という形容詞は出てきたが，「下手」という単語は抽出されなかった．また頻出単語として抽出された「できる」は「共有できる」「体操をできる」などの意で，「出来た・出来ない」「上手・下手」という価値基準ではない観点から体操を捉えていることがわかる．

「楽しい・合わせる・協力・一体感・綺麗・できる」などの記述と合わせ，デンマーク体操を指導する教師の教育的意図を実感していることが推察できる．

6.1.2　年齢別特徴

年齢別の特徴として

大学生「楽しい・できる・感じる・ダンス・しなやか・美しい・表現」

高校生「楽しい･できる･難しい・きつい･綺麗･合わせる・教える・面白い・すごい」

中学生「楽しい・できる・協力・踊る・合わせる・リズム・難しい・揃える・教える・綺麗・一体感」

小学生「楽しい･達成感・難しい・協力･仲間･運動・元気・合わせる・感じる・仲間・リズム」

が抽出された．

年齢や経験が上がるにつれ，（小学生）「仲間と協力して難しい運動ができた達成感」，（中学生）「難しい動きを教え合い，リズムを揃えて踊る」（高校生）「難しいきつい動きを教え合い，綺麗にできるようになること」．（大学生）「その表現が美しく，しなやかだと感じるようになっていく過程」が顕出した．

「楽しい」は全体を通して出現した．小学生の「運動」「元気」という単語は健康につながる概念であり，運動＝健康＝元気と理解していることが推察される．「美しい・綺麗」については，中学生以上で頻出単語として抽出されている．小学生はJ学園では「美しい」が抽出されたがK学園では「すごい」の記述が見られた．「美しい」や「綺麗」は小学生には日常的に使う言葉というより「すごい」の一言に含まれている可能性があるのではないかと推察される．

3校ともデンマーク体操が学校の身体文化の伝統として定着していることが記述から明らかとなった．対象校は小・中・高校と続く一貫校である．J学園とK学園の回答からは「憧れ」など学年を超えた体操発表に対する感想が見られた．「気がついたらできるようになっていた」との感想からも分かるように，デンマーク体操の動きを積み重ね習熟することで身体知として体得されていることがわかる．

またT学園，J学園では小学生から大学部までが合同で体育祭，体操会を実施している．小学生から大学生までが同じ空間でデンマーク体操の発表を行うことで，実践する児童･生徒･学生は，大きくなったら，あんな風に体操ができるようになりたいという憧れをもち，観客も年齢を重ねてデンマーク体操の身体知を獲得している様子を共有する機会となっていることが推察される．同じ空間と時間で共有される身体性が，それぞれの学校の独自の身体文化を形成し，伝統として引き継がれていることが分かる．

6.2　デンマーク体操の特徴

全体では＜リズミカルな動き＞93%＜競争ではなく，協力して作り出す動き＞92.8%＜みんなでリズムや動きを揃えて動く楽しさ＞90.4%と高値を示した．＜手具や体重を利用した振りの動き＞や＜指先や足先まで意識をして美しく動く運動＞など体操の動きに関わる項目は，体操の経験年数と動きの習熟により，意識が高く

なっている事が推察される．体操発表に関わる項目＜発表する楽しさ＞＜体操している人と観ている人が共に楽しめる＞は，共に経験年数が長いほどそう思うとの回答が多くなっている．

一方＜力強い動き＞は62.3％（中学生）であった．身体効果でも「筋力がついた」という回答45.5％（中学生）が半数以下であり，デンマーク体操には「力強さ」という特徴があるとは言えない結果であった．

2000年以降の来日チームの演技発表では，一斉に行う力強い徒手体操から個別に動く表現的体操へと変化している．J学園では2003年以降，毎年デンマークから若手指導者が来日し体操を教えている．表現的な動きを身につけた体操指導者が教える体操が変化してきたことも要因の一つと推察される．

自由記述では「みんなで覚えるために練習する楽しさ」「腕回しが難しい」「こだわりが強くなる」「正解がない」「気持ちの表現」「慣れたら楽しい」「仲間と合わせる運動」「終わった後もとてもスッキリして楽しく終われる」「音楽に合わせて体操すること」「上手にできなくても楽しく取り組むことができる体操」「柔軟な動き」「仲間と教え合う中でのコミュニケーション」「作るのも楽しい」「協力してやりこなせた楽しさ」「楽しくて盛り上がる」などがあり，小学生では「体育の先生神」「体育の先生素晴らしい」など教師の指導力がデンマーク体操の特徴に影響していることが記述されていた．

6.2.1　楽しさ

デンマーク体操の特徴について「競争ではなく協力して創り出す動き」「リズミカルな動き」「みんなでリズムをそろえて動く楽しさ」に90％が合意している．どの年齢においてもデンマーク体操の特徴として「楽しさ」が認められた．生徒の感想では「楽しい：複雑な動きができるようになった時の楽しさ：1人よりも大勢で揃った時の楽しさ」を体感していることがわかる．記述内容から「楽しさ」の因子として因子1「人間関係」（みんなで一緒に），因子2「基本的運動欲求」（動いていると楽しくなる），因子3「気分」（気持ちが良い），因子4「リズム・音楽」（どの動きもリズム感があって動くのが楽しくなるから），因子5「達成感」（難しかったけどできた），因子6「協力」協力して発表，因子7「自己表現」（言葉でなくても体で表現できる），因子8「観る」（みていて楽しい）の8つが抽出された．「楽しさ」は運動者の主観による情動であり，動くことから得られる身体的「快」，嬉しいなど感情から得られる「快」，そして仲間と協働して得られる人間関係による「快」，など楽しさの多義性が認められた．

徳永・橋本が行った「運動の楽しさ」に関する調査では，楽しさの要因として「人間関係」（運動によって連帯感を味わう，運動の中でお互いに協調性が得られる）「レクリエーション」（自由にできる軽度の運動）「運動の基本的欲充足」（思う存分運動する）など9つの因子が抽出され，「動いて楽しい」という基本的運動欲求だけでなく人間関係や学習形態（1人/2人組/グループ）などが楽しさへの要因に寄与していることが報告されている（徳永・橋本，1980）．

このように「楽しさ」についての今回の知見は，これまで明らかにされてきた運動の楽しさにおける集団性の関与を裏付けるものである．また笹本は「学校場面での自己の肯定度を高めるためには「仲間」との「関係」をつくる（つくれる）授業形態が必須である」としている（笹本，2007）．

本研究で「楽しさ」の因子として「みんなで一緒に」などの人間関係が挙げられた．この「楽しさ」は笹本が述べる自己肯定度の高める因子と関連があるだろうか．伊藤らは，体育学習において児童・生徒が楽しさを規定する要因として「集団活動」と「自己決定」を挙げている（伊藤，1988）．

学習者は「みんなで協力してできた喜び」「集団演技も最初は難しくてできなかったけど，やっていくうちに覚えて最後には楽しく踊れたから」と記述している．自己肯定感の向上と集団での活動が楽しさの要因であるとするならば，デンマーク体操における楽しさも仲間との交流から自己肯定感が得られているといえる．

6.2.2　デンマーク体操の自由さ

デンマーク体操の演技は，ダンス的要素や体操的要素がリズムの変化により展開される．学習者は「体操」を「運動・踊り・ダンス・体操」などと表現しており，それらの区別は見られない．「スピードに緩急がつくことでただふりを覚えて体操する，というよりもダンスらしい要素があるように感じる．自分が体操にめり込ん

でいくような感覚があるので，心の表現であると考えた」の記述があった．

＜デンマーク体操で得られたもの＞の自由記述では「音楽との一体感」があり，頻出単語として「音楽」が抽出された．また身体的効果として70.8％が「リズム感が良くなった」と回答している．「ダンスと体操を組み合わせた体操：ダンスを踊りながら体操をする運動だから」などの体操とダンスを往還する領域と捉えられていることがわかる．「面白い：体操というと堅苦しく聞こえがちだが，さまざまな動きがあって，それぞれの動きにあった見せ方みたいなものを意識しつつできて興味深いからです」「楽しい：いろいろな動きがあるから」「解放：体と心を自由にし，感じ方も動き方も型にハマらず楽になれる」などがあった．学習者は形がない多様な動きが含まれることを「楽しい」「面白い」と受け止め様々な身体表現の自由さを心身の解放と感じていることがわかる．「体操というと堅苦しく聞こえる」という感想は，体操が「体力づくりのためにする運動」というイメージを内包していることを示唆している．では体操をダンスとして見た時，学習から解放され表現が自由にできると言えるのか．ダンス授業の全国調査では「表現が苦手」と感じることや「男子は踊りに抵抗感がある」などの課題が挙げられている（栫ほか，2021）．

「デンマーク体操」はリズムと表現の領域に関わる内容である．男子生徒の感想では「ダンスを踊りながら体操をする運動」「身体の表現を意識した体操」などダンス的動きであっても「体操」として捉えていることわかる．デンマーク体操にはリズム体操が含まれている．城田は「リズム体操は動きの創作などダンス領域と接点が多く，体操と舞踊が相互に浸透し両者の差異は判然としなくなっている」（城田，1984）と述べている．ダンスは表現することを主とする身体運動だが，デンマーク体操は動きから表現が表出される運動である．ダンスでは表現への「恥ずかしさ」が学習を停滞させる要因として挙げられている（大西，2020）．本調査では大学生が「発表する楽しさ」89.9％「体操する人も観る人も共に楽しめる体操」91.8％と発表に対して肯定的な回答が得られた．ダンスとして表現することが苦手でも体操として動くことで表現に対し抵抗感なく発表できている可能性が推察される．

6.3　デンマーク体操と体つくり運動の関連

＜デンマーク体操で得られたもの＞では学習者が「体つくり運動」のねらいである「心身の状態の気づき」（自分と向き合う力 76.9％）「仲間との積極的な関わり合い」（人と合わせる協調性 89.7％，仲間との一体感 90.1％）を体感していることが明らかとなった．＜意識と動きを連動させる＞＜柔軟な身体＞では，年齢が上がるにつれ高い値を示した．平成 4 年のスポーツテストでは，小学生から長座体前屈（柔軟性）の測定値が上がり 17 歳が最も高い値を示している（スポーツ庁，2022）．柔軟な身体の実感が小学生と比較し高校生の値が高くなっていることは測定値と一致する．＜リズム感が良くなった＞は大学生 74.0％，高校生 66.7％に比べ小学生 87.0％であった．新しいリズムを学ぶ過程で動きを習得していくことから「リズム感が良くなった」と主観的に感じていることが推察される．体力を高める運動として筋力がついた（47.5％）や「疲れにくくなった」持久力（47.5％）などは特に自覚されていない．＜左右のバランスが良くなった＞では小学生（78.3％）が当てはまると回答しているが中高大では特に差はなかった．教師が小学生を指導する際，左右を意識するように声かけを行なったことが影響していると推察される．身体的効果についてはスポーツ庁の体力測定結果と一致する点も含め，特にデンマーク体操による効果であるとは断定できないという結果が示された．

体ほぐしの観点からデンマーク体操について考察すると自由記述に「教え合う」「仲間との協力」「周りと合わせること」などがあり，頻出単語として「協力」「仲間」が抽出された．学習者は「身体との対話：たとえ自分の体について知っていると思っても実際にはわからないことだらけ．そんなわからなさを体操で気づかせてくれると思う」「自分自身の身体の状態がよくわかります．体をしなやかに動かすことで徐々に筋肉がほぐされ，気持ちの良い体操ができるようになります」「伸びやか：皆で気持ちよく伸びやかに体操するから」「健康的な体操：体が軽くなるから」など自己への気づきや他者の体への気づきがあった．

笹本の「体ほぐし運動」に関する調査では，体ほぐしの運動の要素として「気づき」「調整」

「交流」ががあり「体ほぐしの運動」の評価項目として,「自己の身体への興味・関心」「身体に関する知識理解」「身体の状態への気づき」「心の状態」を挙げている（笹本, 2007）. 学習者の記述と笹本の結果からデンマーク体操が「体ほぐしの運動」を内包していること表しているといえる.

学習指導要領との関連から考察すると，平成29年の学習指導要領改訂には「表現力」「人間性」の記載がある．体つくり運動にある「表現力」とは自己や仲間の考えたことを他者に伝える力とされる.「人間性」とは人でなければならない特性であり「目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みである」と書かれているが内容は「公正, 協力，責任，参画，共生及び健康安全」の具体的な指導内容が示されている.

調査の結果「デンマーク体操の特徴」として「楽しい」「難しい」「美しい」「面白い」「かっこいい」が頻出単語として抽出された．体ほぐしの評価にはない「美しい」「かっこいい」など体操を感性的に捉えていることが記述から明らかとなった.

以上からデンマーク体操は体つくり運動としての身体効果，体ほぐし運動としての心的かかわりや他者への気づきを含む体操であると同時に,「美しさ」や「かっこよさ」など体つくり運動にはない感性を育てる内容が含まれていること明らかとなった．ではこの感性はどのように育まれるのか.

6.4　デンマーク体操と間身体性

問題の所在で書いたように，石垣は身体的対話と身体的でない対話を区別し,「身体的でない対話は『知的』あるいは『心的』な過程によって生じる感じ，すなわち『知的な感じ』や『心的な感じ』であって身体運動の過程によって生じる『身体的な感じ』ではない．仮にそこで『われわれ』という認識が成立したとしても，それは知的あるいは心的な感じとしての『われわれ』に過ぎない」（石垣, 2012）と述べている.

ではこの調査で明らかとなった「デンマーク体操」は果たして石垣が述べる「心的かかわり」なのかそれとも「身体的関わり」と言えるのだろうか.

＜デンマーク体操で得られたもの＞＜あなたにとってデンマーク体操とは＞では「協調性」や「皆でリズムを合わせて動く楽しさ」「繋がりを持たせてくれるもの：話したことのない人と一緒に踊ったり教えあったり，笑って楽しんで踊ることができた．上下級生関係なくコミュニケーションが自然に生まれたと思う」「一体：みんなで一体となって動きを合わせ一つの演技を作り出すから」などの記述があった.「一緒に踊ること」や「教え合い」は身体を介してなされる経験である．奥井は「間身体性」の教育学的意義について「身体的経験により『自己の絶えざる更新の経験』すなわち身体において常に感得され続ける経験の豊かさに『驚き』を感じることは身体の教育の一つの可能性といえるのではないか」と述べている（奥井, 2011）.

学習者の感想で「初めてデンマーク体操をした時はとても苦手だった．しかし授業で取り組み３年目の今年できるようになった．何も考えずともリズムに乗って身体を動かせるようになり，自分以外の周りの人との調和というところにも着目できるようになった」と書いている．奥井の述べる絶えず自己の身体経験が更新されていくことをこの記述から読み取ることができる．間身体性は他者との関係性に基づく概念である.

石垣は身体的経験が身体的対話になるには「他者との関わり」を絶対的条件としている（石垣, 2014）.

学習者はデンマーク体操について「響きあい：この体操というものは１人で成すものではなく，演じる人，見ている人皆で創り上げていくものだと感じる．その中にある表現力やこだわりが自分にも相手にも響き合っていく，それこそがデンマーク体操の意義だと私は感じるから」と書いている．これは体操をする自己と体操をする他者だけでなく，その状態を成立させる事物から「間身体性」が成り立つという石垣の理論につながる．他者と身体的対話が成立するには「身体」が不可欠である．それは，頭や心で他者を理解するのではなく身体を通しての対話である．学習者の感想には「全員が一体となって作り上げるものだから」と他者の存在を身体として認識し自己の身体と一体化するという感覚が読み取れる.

石垣は身体的対話が生じている場面について体つくり運動の「ぐらぐら手押しずもう」を「自

らの身体で持って生きようとする身体的対話に他ならない」と述べている（石垣他, 2017）.

つまりそれは，相手の存在を学習（頭）として理解するのではなく，他者と身体的かかわりのある運動場面において，身体と身体による「身体的対話」から「われわれの身体」が生じることを意味している．学習者の記述から，デンマーク体操の発表までの過程は，学習者が練習により動きの習熟が体得され，個々の身体と動きが一体となり，そうした個人の身体と他者の身体が「身体的対話」を通して「われわれの身体」を獲得するプロセスであると言えるのではないか.

ではデンマーク体操で獲得される「われわれの身体」の独自性と何か.

6.5　動きの習熟と暗黙知・身体知の獲得

石垣は「体育で身体を通し獲得されるものは，言語化し客観的に説明できない「暗黙知」を培うのではないか」と論じている（石垣, 2012）．石垣は暗黙知についてM.ポランニーの「我々は語ることができるより多くのことを知ることができる」（ポランニー, 2003）を引用し「言語的な知を支えているのが『意識』であるとすれば,暗黙知を支えているのは『身体』であり，その身体それ自体が知を備えているということ，それが「身体知」ということになるであろう」（石垣, 2012）と述べている.

北川は「身体知と暗黙知の概念区分からメルロ＝ポンティの現象学的身体（corps phénoménal）を言語により表出するとき，それは表出不可能だが伝達可能な客観的身体（crops objectif）となる」としている．また「ポランニーの暗黙知は身体化された知であり，他者に言語で伝えることができない表出伝達不可知の身体知である」（北川, 2023）とも述べている.

学習者は「何も考えずともリズムに乗って身体を動かせるようになった」と実際にデンマーク体操を通して身体知が獲得されていることが記述から明らかとなった．その他「自己表現：綺麗にできたり，力強く表現したりするところがあり，それらは言葉で表さなくても体で表現できるものだと思ったから」との感想が述べられている．デンマーク体操の実践が身体知となり積み重ねることで動きが習熟し，習得された身体知は綺麗や力強いという embodiment としての身体性を有していることを示している．体操の実践者が実践で感得する身体は現象学的身体である．それは他者と共同で動く場面において暗黙知として感得されている．この調査において言語で語られたデンマーク体操は「われわれの身体」として客観的身体を有しており記述を通して身体性の考察は有効であると考える.

6.6　デンマーク体操と身体感性

デンマーク体操の目指す身体像は調和の取れた身体と円満な感情と品性（感性）とされる．樋口は「身体感性論」の教育的価値について「身体感性論は理論であると同時に実践でもあり，実際の身体的パフォーマンスが重要である」（樋口, 2020）と述べている．また「身体への配慮に関する知識や言説を問題化するだけでなく，身体をめぐる実践や身体への配慮を改良する身体訓練までを含む実践的哲学論である」として「自己の身体がより良いものに変えられていく実践的取り組みとして「体ほぐし」にその可能性があるのではないか．それは言語による学びではなく，身体感性論の経験的実践を通して重要な学び得るもの」としている（樋口, 2002）.

裘はこの理論に基づき，ヨーガの実践を通し実践的身体感性につながる可能性を明らかにした．裘はヨーガの取り組みから「実践的身体感性論の授業実践は，子どもたちに身体を再確認する基盤となる経験を与え，身体経験のパターンを増やしたことに教育的意義がある」と述べている（裘, 2017）．実践的身体感性論は個人の内的感覚に集中する側面だけでなく，化粧やダンスのような表象的身体感性論など多様な領域が含まれる．また樋口はP.アーノルドの論から「運動感覚知覚（Kinesthetic perception）の Kinesthetic には Esthetic（美）が含まれており，運動感覚は美的（感性的）だと捉えることができる」（樋口, 2020）と述べている[注14]．裘は表面的に現れる表象的身体感性も内面に集中する経験的身体感性へと変化する可能性を持っているとしている.

デンマーク体操の実践を通して学習者は「静と動の美」「柔軟さしなやかさ：女性らしいしなやかさや柔らかさを表現できる」「綺麗にできたり,力づよく表現したりするところがあり，それらは言葉で表さなくても体で表現できるものだと思ったから」などの実感を得ている.

樋口や裴が述べているように実践者が動きの中から直に美的なものを感性で捉えていることや，運動感覚として「美しさ」を捉えることも身体感性であり，また「しなやかさや力強さを知覚して表現できる身体も身体感性と捉えられることができる．樋口は実践的感性へのアプローチとして「体ほぐし」の可能性を示唆しているが，平成29年の学習指導要領に書かれている「体ほぐしの運動」のねらいは「自己の体に気づき，体の調子を整えたり仲間と交流したりするためのいろいろな手軽な運動や律動的な運動」とされる．デンマーク体操の実践者が体感した美的感覚は「体ほぐしの運動」では取り上げられていない感性を含む．裴の身体感性の実践的アプローチとして行なったヨーガは個人の身体の「内面性」と「向上」の視点から教育的有効性を提示した．裴は「体育の事象を対象とする体育哲学の研究は，体育の実践に立ち帰ることが求められる．これは既存の体育哲学の研究が体育の実践からかけ離れているという批判ではなく，むしろ体育（実践）と体育哲学（理論）の関係の再構築である」と述べている（裴，2018）．裴は実践と哲学を結ぶところの身体感性による快の重要性を提示し，「シュスターマンのこの快の概念は身体感性論においては美と合致することができる」と述べている（裴，2018）．では，集団で行うデンマーク体操の実践においてはどうであるか？

6.7 感性教育として集団で行うデンマーク体操の教育的意義

身体感性の実践的アプローチとしてデンマーク体操を考えた時，そこには「われわれの身体」が捉える身体感性という視点がある．ここにデンマーク体操で培われる身体性を「間身体性」と「身体感性」から考察する意義があると考える．デンマーク体操は1人で実践されるだけでなく，他者と身体的対話を通して間身体性を獲得する．そして学習者たちは体操の実践を通して美的感性を感得していることが記述から明らかとなった．デンマーク体操は集団で実践する経験において「われわれ」としての身体が美的感性を獲得すること，その身体による美的経験のプロセスに教育的意義があると言える．デンマーク体操を通し身体教育として美的感性を育むことは「体つくり運動」が目指す「人間性」に直接的に働きかける可能性がある．ではデンマーク体操の感性教育としての意義をどのように「体つくり運動」で実践できるのだろうか．

美的感性教育は音楽や美術など芸術という教科科目の中で解決される問題として扱われてきた．しかし感性教育として「デンマーク体操」を捉えるならば，他者と身体をシンクロさせながら感じる経験や，他者とリズムに合わせて動く中で生じるリズムとの調和の経験，またその事象が生じる空間と動きの調和などが美的感性を育むと考える．この現象は学ぼうとすることで得られるものではなく，結果として無意識の中に感得される．

スポーツでしばしば美しいとされるのは，卓越した身体能力から生み出される動きの美である．しかし卓越した身体から生み出される美だけでなく，今ここにある自分の体がより良き生に変えていかれるところにも美的感性は働く．卓越した身体により表出されるいわば非日常の美ではなく，デンマーク体操を学ぶ学習者の身体を通した日常の美の育成こそが教育に求められているのではないか．

Ⅶ. 結論

本研究はデンマーク体操を実践している学校を対象に学習者が体操の実践を通して（1）どのような身体性を獲得しているかについて「間身体性」と「身体感性」の概念を用いて考察し感性教育としてのデンマーク体操の身体性が本来「体つくり運動」で期待されている身体性に（2）どのように貢献できるかを検証することを目的とした．学習者への調査結果から以下のことが明らかとなった．

（1）デンマーク体操によって獲得される身体性は「体つくり運動」の「心身の状態の気づき，仲間との積極的な関わりあい，体の柔らかさ，巧みな動き」を包括するとともに「楽しさ・美しさ」などの美的感性を感得している．学習者は体操発表において多様な身体表現を「心と体の解放」と感じ，他者と身体的対話を通し一体となりわれわれの身体として間身体性を感得していると言える．われわれの身体として獲得される身体知は，無意識のうちに暗黙知として蓄積され，身体感性として動きの中に表出されると考えられる．

（2）体つくり運動で期待される身体性は，心

身の状態に気づき仲間と積極的に関わり，自分の身体の課題を発見し，自分の考えを他者に伝えることができる人間性を育むこととされる．デンマーク体操では動きの中で「楽しさ」や「美しさ」などの美的感性が感得されていることが明らかとなった．「美しさ」などの感性は体つくり運動や体ほぐしの運動には明記されておらず，美的感性を身体を通して育むことはデンマーク体操の独自性と言える．「美しさ」の感得は体つくり運動の身体性に貢献できると考える．「美しさ」は人が感じることのできる感性であり，人間性の育成につながる．学習者が体操を実践する中で他者と一緒に動く中から美的感性を獲得すると同時に，デンマーク体操を見るなかで動きの「美しさ」を感じていることが記述から明らかとなった．

美的感性の教育はこれまで美術や音楽など芸術科目の枠組みで考えられてきた．しかし美的経験は人間性の根本にかかわる教育の本質的要素である．身体教育（デンマーク体操）の枠組みで美的感性の身体性を間身体性と身体感性から考察することは実践（デンマーク体操）と理論（体育哲学）とを連動させ，再構造化していくプロセスと言える．それは「デンマーク体操－身体教育－美的感性」というつながりが往還しながら，間身体性として身体知を構造化させていくことであり，日本の学校体育で取り上げられずにきた感性教育としての身体教育の視点であると言える．美的感性は知識として学び獲得するものではなく，身体を通して直に感得される身体知である．体操する自己と一緒にする他者とそれを観る客体（事物）で獲得される身体感性は，数値で測ることのできない感性の知である．

美的感性を育むためには具体的な運動があるのか？という問いに対しては，音とリズム，動きとフォーメーションの調和を体感し，習熟していくことが美的感性につながると考える．例えば重心移動を伴う振りの運動や体幹から始まる波動運動，巧緻性を伴う跳躍運動などを1人または他者と身体をシンクロさせながら感じる経験や，他者とリズムに合わせて動く中で生じるリズムとの調和の経験，またその事象が生じる空間と動きの調和などが繰り返し経験する中で習熟し，身体知となりそれが美的感性を育む．

この実践は，動きのメソッドではなく指導者の身体性に対する意識に大きく依存する．なぜなら「体つくり運動」は技能をねらいとしない身体運動であるため，指導者の美的感性が直に生徒に伝わることであり，指導する教師の「動ける・できる・見せることができる」ということではなく身体性に対してどのように考えるかが問われるからである．この集団で獲得される美的感性のプロセスが，他の身体運動にはない，デンマーク体操の独自性であり，身体教育として実践される感性教育の視点がデンマーク体操の教育的意義である．つまり感性教育の視点を「体つくり運動」に取り入れることで「豊かな人間性」を育む教育につながると言えよう．

Ⅷ．今後の課題

デンマーク体操の実践で培われる「身体知」という視点には，体力向上という教育効果とは別の教育的意義を獲得する可能性があるのではないか．それはたとえば身体を起点として他者とかかわる意識体験を得ることの可能性である．この意味での身体知はデンマーク体操の経験からどのように理論化できるのか．メルロ＝ポンティは自己の身体知覚と他者の身体知覚が同じ世界の内に認識される現象を「間身体性」として考察した．身体現象学の視点からデンマーク体操を捉え，身体で感得される自己・他者との身体経験の教育的意義を解明していくことが課題である．

注

1）「デンマーク体操」：スウェーデン体操を基にニルス・ブックにより考案された体操で，身体から労働による偏りをなくし調和の取れた身体を得ることにより端正さと品格を持った人格の獲得が目的とされる．「新しい体操」の流れを汲む自然な身体表現を含むリズミカルな全身を使った体操の一つである．ブックの体操は身体の基本をつくることとして柔軟性・強靭性・巧緻性を育む動きを律動的に連続して行う．型にはまった動きの形骸化をおそれ，体操の本質を保ちながら，動きは常に変化することが体操であるとした．デンマーク体操は個人の身体的活動だけでなく，ペアやグループによる発表までを含む身体表現である．
現在実施されているのはリズム体操・トレーニング体操・柔軟などを含む体操・転回運動・手

具体操などである．

2）「体操」本研究では1913年以降，日本の学校体育に取り入れ扱われた運動領域の「体操」を対象とする．戦後学習指導要領で「徒手体操」「体操」として扱われた領域である．板垣・春山・滝沢らは1998年に体操を「リズム体操」「トレーニング体操」「保健体操」に分類し体操には「必要充足」（からだづくり）の要素と「欲求充足」（動きづくり）の2要素があると定義づけた．

3）文部省平成10年中学校学習指導要領（保健体育）https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1320122.htm（参照 2023-12-11）
この改訂で「体つくり運動」と名称が変更された．目標は「心と体を一体としてとらえ，運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに，健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り，明るく豊かな生活を営む態度を育てる」とされる．

4）「間身体性」メルロ＝ポンティは自己と他者の存在の繋がりについて「彼と私とは，いわば同じ1つの間身体性 intercorpoéité の器官なのだ」（メルロ＝ポンティ，1970）と述べている．
石垣は運動実践において「身体的な感じ」が私自身に生じると同時に他者の運動を見ることによっても生じる感じであり，身体的な感じを伴った対話により「われわれ」が生じるとしている．メルロ＝ポンティの先天的に備わっている「間身体性」に対し，石垣が主張するのは「さまざまな「身体的経験」や「身体的対話」によってより豊かに再構造化されてゆくような後天的（経験的）な間身体性」（石垣，2014 p.492）である．本研究では石垣の論をもとにデンマーク体操を考察する．

5）「新しい体操」1917年3年余り欧米の体育教育を視察した大谷武一は1930年に『新しい体操への道』を上梓し，「身心はもともと一体にして，分離することのできないものである」（大谷，1960）と明記している．スウェーデン・デンマーク・ドイツの体操を見学し当時の「新しい体操」の流れを目の当たりにした大谷は，形骸化したスウェーデン体操に対して「新しい体操」には「心」があることを伝えていた．実際ブック体操チーム招聘にも委員として尽力している．しかしリズミカルでアトラクティブな体操は当時の日本では受け入れる状況ではなかった．そのため「体操」は体を鍛えることが主として継承されることになっていった．
ニルス・ブックが1914年に学んだとするフィンランドのエリ・ビオルグステンは「体操指導者は美学に関する若干の知識を持たなければならない」とし，「われわれの精神は美術や自然の美しさからくる暗示，霊感に対して感受性を十分に持っている．そしてこれらの美術や自然美は感情や思想を清澄ならしめ，眠れる情緒を覚醒させる力を持っている」と述べている．さらに「理論において体操の『本源』を主張する人々は次の如き原理，すなわち『肉体と魂は1つである』The Body and Soul are one ということに常に一致する．体操なる課業は肉体と魂との間における調和的統一を得ることである」（二宮，1933）と主張している．

6）ニルス・ブックが考案した「基本体操」は生活により生じるさまざまな身体の欠陥を矯正し，身体で自己表現をできる媒介としての身体の育成を目指した．生活で生じる欠陥を矯正する運動として可動域を広げる柔軟性，脆弱を改善する強壮性，巧みに体を動かせる巧緻性を高める体操を考えた．その運動は全身を使い柔軟性・巧緻性・強靭性を高めるための動きをリズミカルに連続して行う運動で，矯正運動，開発的運動，統制的運動の3種類から構成された．
1933年に来日しデンマーク体操を指導したリッテン・クローンは「ブック先生はご自分の体操が形だけに固まらないようにいつも願っていらっしゃいます．むしろいつも健全な革新をされることを望んでいらっしゃいます．本当に進歩してこそ，体操のほんとうの本領なのです」（自由学園，1934）と述べている．

7）1931年のニルス・ブック一行の演技は映像記録として自由学園に保管されている．
「ニルス・ブック率いるオレロップ国民高等学校のチーム来校」（1931/9/15）資料番号（JAV01048-0）全体で9’11”の映像には徒手体操・組体操・器具体操（マット・跳び箱・鞍馬）女子ダンス・男女フォークダンス・歩行，歌いながら行進する様子が記録されている．

8）デンマーク体操チーム来校演技発表による普及（チーム随行中村秀峰氏資料）
1931年のブック体操チーム来日以来2023年12月まで，デンマークから約17チームが来日し演技発表を行っている．オレロップエリートチーム（オレロップ卒業生による選抜チーム）来日は1931，1975，1989，1997，2002，2006，2010，2015の合計8回来日している．記録が残っている学校での演技発表は下記の通りである．

表5　オレロップエリートチーム訪問先

来日年	訪問先
1931	玉川学園，成城学園，自由学園，日本体操学校
1975	東京農業大学，日本体育大学，学習院，日本女子大学，自由学園，玉川学園，東海大学，東豊中高校，九州女子大学，九州東海大学，九州八幡西高等学校，名古屋大学附属高校，名古屋商科大学
2010	福山平成大学，大阪産業大学，神戸女子大学，高知県鴨田小学校，玉川学園，自由学園
2015	日本体育大学，玉川学園，自由学園，大阪産業大学，神戸女子大学，四天王寺小学校，神村学園，熊本学園大附属中高等学校

9）「身体性」：身体性には，精神と物体，主体と客体の対立を超えて人間の有限的存在容態に注目

するところから生まれた別の視点がある．現象学的な見方とともに出現した，身体的実存とか身体性と呼ばれるような主題系であって，それによって身体は心的 / 物的の区別よりもさらに根源的な人間の存在容態として主題化されるようになった．（略）言い換えると精神と物体，主体と客体（意識と対象），超越論性と経験性といった思考の二分法的な枠組み，あるいは観念論と実存論の二項対立などの再検討ないしは，組み換えの必要が強く意識されるところでは，常にそのどちらにも還元できないような両義的な存在に注意が向けられるようになる．それが身体（性）という存在なのであった（哲学・思想辞典 p.828）．

日本語の「身体性」を表す英語には，physicality, corporeality, embodiment などがある．堀田らは「コミュニケーションのなかの身体性」として物理的身体 physicality とは異なる “corporeality” “embodiment” の概念について取り上げている．“corporeality” は社会的行為者としての身体性（主体と同時に客体でもある両義性）を含意する．これに対し，“embodiment” は社会的主体性としての身体性（他者やモノとの相互行為の中で獲得された身体の諸性質）を指す．堀田らは「日本語の身体性には，corporeality と embodiment の概念の区別ができないような形で用いられていると思う」と書いている（堀田他，2022）．

本稿で用いるのは，Embodiment としての身体性であるが，そこには corporeality の概念も含意している．

10）廣橋らは体操の捉え方は ①非競技的スポーツの一群 ②体育目的的組織的運動の一群 ③基礎・基本的体育運動の一群と捉えられ，あり方について ①体育運動の基礎階層的及び中核的領域 ②体育諸目標の直接的追求・実現をはかる運動領域をもつ基礎的中核的存在 ③目指す生き方に即した身体的・精神的人間形成に中核的な役割を果たすことができる運動領域などとしている．

11）1931 年のニルス・ブック体操チーム来日時にはデンマーク体操に関して下記の書籍が出版された．

大谷武一『新しい体操への道』（1931）目黒書店

森悌次郎『ニルスブック基本体操と其批判』（1931）目黒書店

宮田覚造『比較研究わが国の体操とブックの体操』（1936）日本体育学会

宮田覚造・増田彌太郎『ニルスブック基本体操』（1931）日本体育学会

柳田亨『デンマーク体操』（1931）三省堂

森悌次郎『欧州に於ける体操の新傾向』（1931）三書樓

ニルス・ブック『基本体操』（1931）玉川学園出版部

玉川学園教育研究所編『ニルス・ブック体操アルバム』（1931）玉川学園出版部

内山数雄『ポイマティブジムナスティック』（1931）南陽堂出版部

全日本体操連盟の雑誌『体操』第 1 巻第 4 号は「ニルス・ブック来朝記念号 」を発行．デンマーク体操の特集を組んだ．

12）各学校のデンマーク体操の取り組みと歴史

【J 学園】初等部（小学校）女子部･男子部＊（中学高校）最高学部（大学部）が授業の中で「体操」を取り組んでおり，毎年 10 月に幼稚園も含めた全校生徒が学校中央にある大芝生に集い体操発表をする「体操会」を実施している．（本研究実施時は別学だったが 2024 年度より中高共学化した）

初等部：10 月の体操発表にむけ，低学年，高学年にわけたプログラムの練習に取り組むほか，朝の体操，体育授業の始めにするオリジナル体操など単元としてだけでなく，年間を通し授業外でも体操を実施している．

女子部･男子部：体育の授業名を「スポーツ」「体操」にわけ，体操 2 時間，スポーツ 1 時間を実施している．「体操」の授業では 4 月から 10 月の体操会まで仲間つくりの動き（ペアエクササイズ）巧緻性・筋力を高める動き・柔軟性を高める動きなど 1 回の授業の中に様々な動きを取り入れ他者との関わり，自己の身体への気づき，動きの習熟を行なっている．9 月から 12 月までは，姉妹校であるオレロップから若手指導者を招聘し 10 月の体操会までは高等科 2・3 年の女子手具・男子部高等科 1-3 年の徒手体操，最高学部全員体操のプログラム指導を行なっている．体操会後は 2 学期末までは幼稚園から大学部の学生がデンマーク体操指導者から体操（リズミカル）ダンス，転回運動などを学んでいる．デンマーク体操指導者のプログラムは主にゲーム（コミュニケーション）ストレッチング（柔軟・体ほぐし），振りの運動・コーディネーションを組み合わせた動き・ステップ・筋力トレーニングなど行なっている．

2003 年から始まったオレロップの若手指導者招聘により 2023 年までのべ 38 名が来日している．また 1931 年から 2023 年までデンマークからのべ 17 チームが来校し演技発表を実施しており，J 学園からは 2025 年現在 69 名がオレロップ体育アカデミーへ留学している．

【T 学園】1931 年にブック一行が来日した後の T 学園におけるデンマーク体操の取り組みとしては，①講習会 ②公演旅行 ③体育祭 ④部活動 ⑤自由研究の大きく 5 つがあげられる．

まず①講習会は，1931 年 12 月にオレロップ国民高等学校の東洋分校初の講習会を行った後，デンマーク体操の普及の為 1965 年まで行われた．受講者には OTD（Ollerup Tamagawa Delingsførere 体操指導者）の資格が授与された．②公演旅行については 1936 年に軍人会館で行われたデモンストレーションを機に東北，関西，九州，東海，中国，九州，北陸，アメリカ統治

下の沖縄，朝鮮，満州，蒙古など1956年まで各地で公演を行った．特筆すべきはこれらの公演旅行の多くが学生の企画で行われていたという点である．

③T学園では1929年から2023年まで94年間で95回の体育祭が開催されてきた．この体育祭で毎年幼稚部から大学まで，各学部がデンマーク体操を基本としたマスゲームの演技を発表しているが体操の創作・指導には各学部の体育教師が，発達段階に応じた体操の創作・指導に当たっている．1932年の第3回体育祭では，デンマークの体操指導者であるヒルデブランドが創作した行進によるマスゲームが初めて行われ，以後50年間続けられた．1937年の第8回体育祭ではラジオ体操の創作にも携わった石井漠が振り付けた，こん棒体操が初めて行われこの体操は現在でも続けられている．1985年には体育専攻生（中高の教員免許を取得するコース）1～4年生が「ダイナリズム」を披露した．体育教師を目指す学生の演技は迫力と優雅さを兼ね備えたものだった．この演技は以後10年間続けられた．④の部活動については，1948年体操部が正式に運動部として活動を開始した．1966年～1991年には，創立以来T教育と共に歩んできた体操・音楽・演劇・美術の各部がT教育直属部として新たに組織した会直属会として活動した．

1992年以降は体育会に所属し，名称も器械体操との混同を避けるため「体操部」から「デンマーク体操部」に変更，現在は小学6年～中学2年生，中学3年～高校3年生，大学1年～4年生と3つに分かれて日々練習に励んでいる．そして毎年の体育祭で年齢・経験・体格・体力の異なる小学6年～大学4年生までが1つのチームとして演技発表を行っていることが特徴の1つである．最後に⑤の自由研究についてであるが，創設者の小原國芳が提唱した「自学自律」の具現化を目指した教育であり創立当初より今日まで継続して行われている．デンマーク体操をテーマに選んだ児童・生徒たちはデンマーク体操についての研究を個人で進めながら1つのチームとして学園展（文化祭）で演技発表を行う．その発表の種目や内容も自分たちで試行錯誤しながら創作していくことが特徴的である．

1930～2006年の間に斎藤をはじめとした22名がオレロップに留学，2001年には11名の学生が3週間の短期プログラムに参加し，体操及び指導法だけではなく体操を通して人として大切なことを多く学び，その後の教育活動に活かしている．2017年にはオレロップ体育アカデミーにおいて教員研修が行われ体育教員7名が参加した．

【K学園】K学園創立者は，T学園の教育理念である全人教育に深い感銘を受けており，現理事長はT学園の総合大学を卒業している．在学時にデンマーク体操部に所属しており，学校教育におけるデンマーク体操の意義を強く感じたことからK学園でもデンマーク体操やデンマーク体操を用いた体つくり運動を教育課程に取り入れるようになった．現在指導に携わる教員は3名ともオレロップ留学経験がある．K学園では幼稚園年中（4歳児）次から，教育活動の中にデンマーク体操を用いた体つくり運動を段階的に取り入れており，発達段階や目的に合わせたデンマーク体操や体つくり運動を継続的に取り組んでいる．伝統的なデンマーク体操を基本としながら，K学園独自の体操教育へと発展している背景には，それぞれの年齢に合わせて，楽しみながらデンマーク体操・体つくり運動に取り組める教育課程と環境が整っているからであると考える．また高等部保育科の生徒と附属幼稚園の園児がペアになって取り組む体操発表など，一貫校ならではの取り組みや，特別能力コースの生徒による筋力を高めるための体操など個々の特性に合わせたデンマーク体操・体つくり運動を伝統的に取り組んでいることも独自の体操教育と言えるだろう．

K学園の実践しているデンマーク体操は下記の通りである．

① 運動会・スポーツフェスティバル・体育祭など全ての園児児童生徒に，体操発表の場を設けること．

② 発達段階に応じた独自の準備体操を，体育の授業時に全員が取り組むこと

幼稚園：幼稚園体操　初等部：初等部体操　中等部：自校体操　高等部：自校体操

13）「身体感性」：リチャード・シュスターマンが提唱するSomaesthetics（Soma+Aesthetics）の日本語訳である．シュスターマンは美的経験における身体の重要な役割を考察するために，身体を中心に据えた学問として身体感性論を提唱した．その定義は「感性的･美的受容（アイステーシス）と創造的自己形成の場としての身体の経験と使用についての批判的，改良主義的研究」としている．シュスターマンの改良主義は「身体をより良いものへ変えていく」と考え，「より良い体」とは鋭敏な感覚を持った身体，感覚の機能が高められた身体であるとする．シュスターマンは身体感性論という学問が身体への知識や言説を問題化するだけでなく，身体をめぐる実践や身体訓練にまで関与するとしている．シュスターマンは身体感性論が美学の一分野であるとしている（樋口，2020 p.392-393）．

14）美的感性について西村は「『美』とは基本的にあるものやある事態の完全性ないし価値が感性的にポジティブに把握された際のその完全性と同時にその感性的認識，感性的経験をも意味する」としている（西村，2021）．人間の美的教育についてシラーは「感性的人間を理性的人間にする道は，その人間をそれ以前に美的にするより方法がないのです」と述べている（フリードリヒ・フォン・シラー，2017）．

付記

本研究は，日本体操学会の令和４年度公募研究プロジェクトの助成を受け実施したものです．記してお礼申し上げます．また本研究実施にあたり，玉川学園をはじめ神村学園，自由学園で体操指導された歴代の先生方の多大なるご助言をいただいたことに心より感謝申し上げます．

文献

荒木達雄・三宅良輔・伊藤由美子・小柳将吾（2016）『体操教本－体操愛好者から指導者まで－』図書出版 p.10

石垣健二（2012）「『体育哲学』の立場からみた体育の授業研究の成果と課題」体育科教育学研究, 28, Vol.2 : 27-35 DOI: https://doi.org/10.11243

石垣健二（2014）「『身体的経験』および「身体的対話」の領域 :「間身体性の教育」としての学校体育再考」, 体育学研究, 59: 491-492 DOI: https://doi.org/10.5432

石垣健二・檜皮貴子・大滝健太郎（2018）「主体的・対話的で深い学び」について考える　体育科教育学会第 22 回大会号　ラウンドテーブル報告 p.71

伊藤豊彦（1988）「体育学習における児童・生徒の楽しさを規定する要因と教師の認識」体育学研究, 33(2): 123-133 DOI: https://doi.org/10.5432/jjpehss.KJ00003391652

板垣了平（1990）『体操論』アイオーエム p.11

奥井遼（2011）「メルロ＝ポンティにおける「間身体性」の教育的意義－「身体の教育再考」，京都大学大学院教育学研究科紀要, 57: 111-124　URI: http://hdl.handle.net/2433/139732

大谷武一（1931）『ニルスブック基本体操の厳正批判』日本体育学会 : 33-45

大谷武一『新しい体操への道』（1931）目黒書店

大西祐司（2020）「ダンス授業における『恥ずかしさ』の要因と実態」体育科教育学研究, 36(1): 67 DOI: https://doi.org/10.11243/jsppe.36.1_67

栫ちか子, 佐藤豊, 高橋修一, 石川泰成, 金高宏文, 浜田幸史, 檜皮貴子, 山崎朱音, 河合史菜, 小松恵理子, 田巻以津香（2021）『全国の中学校ダンス授業における指導の現状と課題』日本体育－スポーツ－健康学会予稿集 DOI: https://doi.org/10.20693/jspehssconf.71.0_120

片岡暁夫（1999）『新・体育学の探究』不昧堂 p.41

菅家礼子（2000）「体ほぐし」の受け止め方とこれからの「動きの教育」－体操研究者の立場から－日本体育学会第 51 回大会号 : 108, DOI: https//doi.org/10.20693/jspeconf.51.0_108

北川修平（2023）「身体知の概念に関する現象学的研究」体育・スポーツ哲学研究, Vol .45, No.1 pp.15-30 DOI: https://doi.org/10.9772/jpspe.45.1_15

木下秀明（2015）『体操の近代日本史』不昧堂出版 p132

小黒美智子（1992）「体操の発展経緯と方向性に関する研究」新潟青陵女子短期大学研究報告, 22: 77-90. DOI: https://doi.org/10.32147/00001808

近藤智靖, 佐野圭司, 草嶺綾, 渋谷佳澄, 長島麻帆, 小檜山陽香, 中里真梨, 稲飯梓（2012）「小学校『体つくり運動』領域における動きの質的評価に関する事例的研究」，日本体育大学紀要, 41(2): 171-178　https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I023675807

近藤智靖・岡出美則（1995）「戦後日本の体操領域の変遷とその問題点」愛知教育大学体育教室研究紀要, 19(19): 25-36　http://hdl.handle.net/10424/2696

斎藤由理男（1977）『斎藤由理男の体操論』日本 OD 会 p.11

崎田嘉寛（2023）「1930 年代日本における女子を対象としたニルス・ブック基本体操に関する一考察」体育史研究, 40: 41-53　DOI: https://doi.org/10.24686/taiikushi.40.0_41

崎田嘉寛（2019）「大日本帝国海軍におけるデンマーク体操の需要と民間への普及」体育史研究, 36: 73-92 URL: https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-16K01643/

佐々木浩雄（2016）『体操の日本近代』三松堂 p.29, pp.62-91

笹本重子（2007）「『体操』の学習における『体ほぐしの運動』の意義」日本女子体育大学紀要, 37, 33-44 DOI: https://doi.org/10.34349/00000829

F.V. シラー, 小栗孝則訳（2017）『人間の美的教育について』法政大学出版局 p.133

島崎旺（1979）「新体操の考察」千葉大学教育学部研究紀要, 28(2): 83-88　https://ndlsearch.ndl.go.jp/books/R000000004-I2162593

城田由美子（1984）「舞踊か？体操か？」跡見学園女子大学紀要第 17 号 p.19-27

城丸章夫（1960）『体育教育の本質』明治図書出版 pp.84-85, p.173

自由学園（1934）ミス・クローンの言葉『学園新聞』第 63 号 1934 年 8 月 1 日号

鈴木慶子, 松平昭二, 岡田雄樹, 近藤智靖（2016）「中学校体育における体つくり運動の体力を高める運動に焦点を当てた授業に関する事例的研究」日本体育科教育学会, 32(1): 21-32 DOI: https://doi.org/10.11243/jsppe.32.1_21

鈴木裕子（2011）「『身体的な感性』の概念化に関する論考」名古屋柳城短期大学研究紀要（33): 23-35 https://ryujo.repo.nii.ac.jp/records/296

菅家礼子（2000）「体ほぐしの受け止め方とこれからの動きの教育」日本体育学会第 51 回大会　体育科教育シンポジウム p.108 DOI:https://doi.org/10.20693/jspeconf.51.0_108

菅井京子（2014）「R. ボーデの「表出体操の本質について」にみられる L. クラーゲスの影響について」スポーツ史研究,（27): 31-41 DOI: https://doi.org/10.19010/jjshjb.27.0_31

スポーツ庁 令和４年度体力・運動能力調査結果 https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/toukei/chousa04/tairyoku/kekka/k_detail/1421920_00010.htm（参照 2023-12-17）

滝澤かほる・阿保雅行・小林日出至郎（2005）「感性

教育のための体育学習に関するアンケート研究」新潟大学教育人間科学部紀要, 8(1): 97-116
田川典子, 板垣了平, 金井芙三枝, 加茂佳子, 片岡康子（2000）「ダンスと体操－ダンスと体操の接点を探る」舞踊學：36-45 DOI: https://doi.org/10.11235/buyougaku1978.2000.2Supplement_36
田渕宗孝（2022）「デンマーク的身体の受容と想像力」羽衣国際大学現代社会学部研究紀要, 11: 27-44 https://doi.org/10.51025/00000015
徳永幹雄・橋本公雄（1980）「体育授業の『運動の楽しさ』に関する因子分析的研究」九州大学　健康科学, 2: 75-90　DOI：https://doi.org/10.15017/351
西村拓生（2021）『「美と教育」という謎プリズムとしてのシラー美育書簡』東京大学出版会
日本体育学会（1931）『ニルス・ブック基本体操の厳正批判』日本体育学会
Niels Bukh（1931）『基本体操』玉川教育研究所 p.15
二宮文左衛門（1933）『エリ・ビオルグステンレスの学校体操』目黒書店 pp.11-15
Hans Bonde（2020）“The Fight about Gymnastics over 100 Years” Syddansk Universitetsforlag p.15 pp.284-286
裵芝充（2017）「教育のための実践的身体感性論の研究」学習開発学研究, 10: 107-116 https://doi.org/10.15027/42644
裵芝充（2018）「プラグマティズムとしての身体感性論：身体感性論に与えたディーイの影響と体育哲学への示唆」体育学研究, 63: 185-198 DOI: https://doi.org/10.5432/jjpehss.17037
羽仁淳（1960）『デンマーク体操』杏林書院
橋本道（1957）『新しい体操』玉川大学出版
早野曜子（2021）「デンマーク・オレロップ体育アカデミーと自由学園の交流（その1）」生活大学研 究, 6(1): 118-128　DOI:https://doi.org/10.19019/jiyu.6.1_118
早野曜子（2022）日本体操学会第22回日本体操学会ポスター発表 https://taisou.jp/wpcontent/uploads/2022/11/presentation-list.pdf（参照 2024-2-13）
樋口聡（2002）「学習論としてみた『身体感性論』の意義と可能性」広島大学大学院教育学研究科紀要, 1(51): 9-15　https://doi.org/10.15027/16156
樋口聡（2020）「『身体感性論』という新しい哲学プロジェクトと教育」教育学研究, 87(3) pp.63-71 DOI: https://doi.org/10.11555/kyoiku.87.3_391
檜皮貴子（2013）「大学生における「体つくり運動」の実施経験と意識調査：駿河台大学の学生を対象として」駿河台大学論叢, 46: 97-111 DOI: https://doi.org/10.15004/00001285
檜皮貴子（2023）「現場で活用される」体つくり運動の教材を開発する」体育科教育, (71) 5: 20-24
松本奈緒（2015）「中学校段階の体ほぐし運動における学習者の概念形成－ふきだし法による自由記述とインタビューの分析を通して－」体育科養育学研究, 31(2), 2015 pp.1-16 DOI: https://doi.org/10.11243/jsppe.31.2_1
南貴大・池田拓人（2018）「学校体育における体つくり運動の実践的位置付けに関する研究－学習指導要領改訂を通して－」和歌山大学教育学部紀要第68集第2巻教育科学pp.157-163 DOI :https://doi.org/10.19002/an00257966.68(2).157
廣橋義敬, 金原勇, 斎藤冨美枝, 田島行夫, 高山弘, 島崎旺（1989）「体育科における体操領域の捉え方・在り方とその指導」千葉大学研究, 12: 15-21
樋口聡（2002）「学習論としてみた『身体感性論』の意義と可能性」広島大学大学院教育学研究科紀要, 1(51) : 12, 9-15
樋口聡（2020）「「身体感性論」という新しい哲学プロジェクトと教育」教育学研究, 87 (3) p.392-393
堀田裕子, 池口佳子, 石井由香理, 渡邉照美（2022）「コミュニケーションと身体性」質的心理学フォーラム vol.14 p.5-12 DOI: https://doi.org/10.24525/shitsuforum.14.0_5
前原千佳他（2023）「大学体育体操指導者の指導観に関するインタビュー調査研究」体操研究, 17: 1-13 DOI: https://doi.org/10.4107/gym.17.1
マイケル・ポランニー（2003）『暗黙知の次元』ちくま芸術文庫 p.18
南貴大・池田拓人（2018）「学校体育における体つくり運動の実践的位置づけに関する研究」和歌山大学教育学部紀要, 68(2) 巻教育科学 pp.157-163 https://doi.org/10.19002/an00257966.68(2).157
宮田覚造（1931）『思想と実際より観たる我国の体操とブックの体操』日本体育学会, pp207-210
村山鉄次郎（1989）「我が国の体操の歴史」明治大学教養論集 220: 1-16
M. メルロー＝ポンティ（1970）『シーニュ 2』みすず書房 p.18
森悌次郎（1931）『ニルス･ブック基本体操と其批判』目黒書店
森下孝（1984）「三橋喜久雄の体操観と，わが国の学校体操に及ぼした影響（その1）大正初期より，ニルス・ブック来朝前後を中心として」慶應義塾大学体育研究所紀要 Vol.24, No1: 13-28
文部省（1977）学習指導要領 HP https://erid.nier.go.jp/files/COFS/h10h/chap3-10.htm（参照 2023-12-17）
文部科学省（1998）平成10年告示中学校学習指導要領（保健体育） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1320122.htm（参照 2023-12-11）
文部科学省（2017）平成29年告示中学校学習指導要領（保健体育） www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/（参照 2024-2-2）
柳田亨（1931）『デンマーク体操』三省堂 p.23
頼住一昭（2012）「日本におけるスウェーデン体操に関する一考察」愛知教育大学紀要, 6: 141-48 http://hdl.handle.net/10424/4426